

白麗 (はくれい)

登録番号: 第 7264 号	男 森 敦茂 高木伸友 石田
登録年月日: 平成 11 年 7 月 21 日	喜久男 片岡正治 各務裕史
登録者: 岡山県 (岡山県岡山市内山下二 丁目 4 番地 6 号)	来 歴: 「大久保」と「肥城桃」の交雑 実生
育成者: 東山四郎 井上航一 依田征四 笹辺幸男 木村 剛 清水佐伯	育成地: 岡山県赤磐市神田沖 (岡山県農 業総合センター農業試験場)

特 性

■栽培特性

樹勢は強勢で、樹姿は直立形と開張形の間である。樹の大きさは中程度で、「白桃」よりやや小さい。

花芽の着生は良好で複芽が多い。結果枝は細く、短果枝に品質が良い果実が着生する。若木時代は長果枝が多いため、剪定を軽めに行い、長果枝を予備枝として残しておくとし翌年には短果枝が付きやすい。

花形は普通咲き、一重で、大きさは中程度、形は円形、色は淡桃色である。花粉を有するため、人工受粉は不要である。

硬核期の生理的落果は多い。若木時代は特に生理的落果が多いため、摘蕾は行わない。予備摘果は「白桃」より軽くし、仕上げ摘果は生理的落果が終息してから行う。また、生理的落果の一つである収穫前落果が起こりやすい。特に果梗部付近の維管束が断裂して肥大が劣り、異常着色する「すじ状着色果 (仮称)」の発生が多い。太い長果枝で発生が多い傾向があるため、中・短果枝に着果させる。

■果実特性

果実の外観は円形、大きさが大、果皮の地色が乳白色、果皮着色は、有底オレンジ袋を掛けた場合、わずかに斑状に着色する。果実の大きさは約 290g で、「白桃」とほぼ同程度である。果皮の剥皮性は容易で、多汁質である。肉質は溶質、果肉の粗密は密、果肉繊維の多少は中で、甘味はかなり多く (屈折計示度で平均 15.5 度)、酸味は微程度で、渋味および苦味は無である。切断直後の果肉色はクリーム色で、果肉内着色はない。核周囲の着色は多い。

核は粘核で、核割れの多少は微～少である。裂果はない。果実の日持ちは良である。

成熟期は満開後 121～130 日、育成地 (岡山県赤磐市) では 8 月中旬で「白桃」とほぼ同時期である。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

さび病、せん孔細菌病に特に弱い特性がある。また、有袋栽培の場合、仕上げ摘果を他品種より遅く行うことから、袋掛け作業も遅れて無袋期間が長くなるため、モモノゴマダラノメイガ、ナシヒメシクイなどの果実食害害虫や黒星病、灰星病などの防除を徹底する。

双胚果の発生は多いが、幼果の扁肉程度が小さいため、正常果との区別が付きにくい。

葉色は「白桃」より薄い。「白桃」と同程度の葉色になるような施肥では、樹勢が旺盛になって生理的落果が多発しやすい。

■地域適応性

砂質土壌、粘質土壌ともに適するため、栽培地域の適応性は広く、東北南部～九州まで栽培は可能であると思われる。強風が頻繁な地域では、せん孔細菌病の発生が危惧されるため、防風林等による防風対策の必要がある。
(笹辺幸男)